

アモルフでは、ネット上で日々やり取りを行う新しい形のカウンセリング（デイリーサポートシステム）を開始します。

このデイリーサポートシステムには、すでに定評のある [SPIS（エスピース）](#) というツールを用います。

SPIS はもともと、精神・発達障害の方の就労定着支援を目的として開発されたもので、企業だけでなく、内閣官房人事局や埼玉県庁といった公的機関でも利用されています。また、現在、対象者は精神・発達障害の方だけでなく、いわゆるメンタル不調（休職・復職者も含め）の方も対象としており、いずれにおいても大きな成果をあげています。

アモルフではこうした企業・公的機関での実績を踏まえ、検討を重ねてきましたが、このたび、SPIS をカウンセリングツールとして正式に採用し、クライアントの心身の安定を図ることとしました。

SPIS を用いたカウンセリングは、アモルフが国内で初めて行うものです。

このカウンセリングの特徴は、日々、ネット上でクライアントとカウンセラーがやり取りすることにあります。いわゆるメールカウンセリング、LINE カウンセリングとは全く性質が異なります。

その主な違いは次の通りです。

- ①デイリーサポートシステム（SPIS カウンセリング）では、クライアントが体調を崩すきっかけとなりやすい項目（5-7 項目程度）を日々、セルフチェックすることからスタートします。このため、まず最初に「クライアントにとってどんな項目を日々、セルフチェックすればよいか」を話し合い、クライアントの固有性、個別性に基づいたセルフチェック項目を設定します。
- ②日々のカウンセリングの流れにそって言えば、クライアントがまず、自分のセルフチェック項目に向き合い、その日の自分の状態をチェックしたうえで、“利用者コメント”を自由に記入します。そして、これをカウンセラーが読み込み、“担当者コメント”をクライアントに返す・・・という流れとなります。
- ③こうした日々のやり取りを 1 ヶ月、3 ヶ月、半年と続けることによって、セルフチェック項目の結果が蓄積され、これをグラフ化することが可能となります。このグラフが、クライアントの問題を解決するうえでこれまで気づかなかった新しいヒントをもたらすことになるのです。

関心のある方は、SPIS カウンセリングを検討していただけたらと思いますが、まず1ヶ月間、このカウンセリングを体験されることをお勧めします（お試しセット料金でご利用いただけます）。ぜひ、お問い合わせください。

（注）ここで用いた“日々”という表記は、基本的に土日祝日以外の平日を指しています。また、“日々”のやり取りは一日一回を原則としています。

【参考】

SPIS 研究所 ホームページ